

えんぼとたんぼの始発駅

里山ビオトープ二俣瀬

# 会 報 第 128 号

2012年3月23日

里山ビオトープ二俣瀬をつくる会

編集責任者：西原 一誠

## 1. 活動報告（事務局 記）

—2月25日（土）エコ仲間の集いに参加し、当つくる会もパネル7枚を展示し、親子自然観察隊募集・つくる会会員の募集他パンフレットも設置してビオトープの説明も行いました。

—3月4日（日）午前 15名の参加でした。

午前 定常活動

- ① エコアップ(湿地帯外周部のタテバチドメクサ駆除、溜池入水周辺の繁茂夜這い草刈取り)
- ② シイタケホダ木菌打ち・養生（ホダ木30本800コマ）  
来年秋に美味しいシイタケがたくさん採取可能です。
- ③ ビオトープ入口3ヶ所 看板取付（看板屋製作品）  
（動植物の持ち込み持ち出し禁止・安全散策注意）

午後 否定常活動

UNCCA 主催・当つくる会共催 カーボンオフセット植樹祭参加  
当会より7名植樹指導者として参加

—3月18日（日）16名の参加でした。

- ①□湿地帯の繁茂スゲ草・タテバチドメグサの間引きを行いました。  
西側散策橋の川側一帯は植生の調査を行うため間引きは中止しました。
- ② 湿地帯の散策橋の修復工事を行い今年度の修復活動は終了しました。
- ③ 参加者が多かったのでビオトープ東入口の路面の一部修復も出来ました。

## 2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者 フジとキララ子どもエコクラブより8月の親子自然観察会と同じ日に活動を申し込まれています。

◎行事

—4月08日（第二日曜日）9時より二俣瀬ふれあいセンターにて 24年度総会

—4月21日（土）親子自然観察隊 ふれあいセンター入隊式後・食べられる野草

## 3. 来訪者の声

今月はありません

#### 4. 会員の声

##### 「生物多様性地域連携保全活動計画策定協議会に参加して」 (中本 亜矢子 記)

宇部市は、小野湖周辺の環境保全を主眼にした「生物多様性地域連携保全活動計画」を策定し、市政100周年を迎えるH33年度を目標に、関連施策を展開することになりました。その計画を策定するために協議会を設置し、H24年2月27日(月)、第1回の会議を開きました。委員は、学識経験者、地縁団体(小野湖周辺)、市民活動団体、事業者(アクトビレッジ、小野の農園)、一般公募者2名、山口県自然保護課主幹の計20名。私は、市民活動団体、里山ビオトープ二俣瀬会員として参加。学識経験者として、関根教授も参加されていました。

そもそも、「生物多様性保全」という言葉に、あまりなじみがないのですが、どういう意味なのか。今回、会議のなかで講演していただいた広島大学大学院の中越信和教授のことばをお借りすると、「人間の生活や文化を守り継承しながら、自分たちの営みを支えるもの(自然や生態系)も守っていく」考え方だそうで、人間の暮らしと自然との共存に留まらず、自然の恵みを最大限利用して、人間の生活を更に豊かに発展させていくことのようにでした。地域の自然的社会的条件に応じて、地域の様々な関係者が連携しあって、人と自然をつなげ、地域の活力を生み出していくことが期待されているようです。

講演会のなかでは、具体的な事例がいくつか紹介されていました。身近な取り組みでは、美祿市秋吉台の取り組みが紹介されました。秋吉台を野焼きすることで、生態系が保たれ、観光客が集まり、地域が活性化しているそうです。今後は、低炭素社会、循環型社会の視点や、宇部地域の文化の継承と水質保全、都市や工場内の生物多様性保全活動の向上・創設・ネットワークの模索、産官学民の生物多様性保全活動イニシアティブを鍵として、H24年11月までに素案を作成していく予定です。

話を聞けば聞くほど、専門知識のない自分に務まるのか、どんなふうに関わっていったらよいか、不安な気持ちになってまいりました。

里山ビオトープ二俣瀬をつくる会として、どんなアプローチをしていくべきか等、皆様の力をお借りしながら、任務を果たしていきたいと思っております。どうぞよろしく願います。

##### 【厚東川の生物の状況】 (原田 満洲夫 記)

以前上記の「生物多様性・・・計画策定協議会」準備会より厚東川の生態系についてアンケート要請があり記述しました。主たる当方の記述内容は、厚東川ダムが出来て以来雨期を外れると厚東川ダム以下の水位が支流の甲山川の水の流れだけで本流は工業用水、生活水と取水され減少したこと、特に宇部丸山ダムが追加され益々レベルが減少し魚類・水草の量、種類も減少している。

宇部市/山陽小野田市での水使用量も市民生活の向上からぐんと増え夏場になると使用制限が頻繁と発生される。生態系にとっては誠に以って不都合が発生する。

したがって「生物多様性地域連携保全活動計画策定協議会」においてはダム上流だけでなく前述のダム下流以下の生態系も協議してほしいものです。

木田橋の下にあった中島を洪水の温床と言われ取り除かれ。更にせき止められていた水位が下がって、昔生息した魚類、水藻等がずい分と見られなくなった。世間では絶滅危惧種と言って環境の自然態であるように言うが、すべて人的な問題から発生していること忘れてはならないと私は思う。 “帰って来てよ、昔いた魚・水藻たちよ！”

## 5. ビオトープ関連（ビオトープのトンボたち）（管 哲郎 記）

### （46）ギンヤンマ（ヤンマ科・ギンヤンマ属）*Anax parthenope* Julius BRAUER

ほぼ日本全土に棲息する代表的なヤンマですが、近頃はすっかり見られなくなりました。水田放棄にともなうため池の減少や、農薬被害などによるものと考えられます。

小さな池より大きく開放的な池を好み、数多くの発生が見られる場所もいくらか残っています。

身近に見られる大型のトンボですので、ぜひ残してゆきたいと思います。県内でみられる10種類のヤンマのうち、皆さんの目に留まるヤンマはギンヤンマ以外ではオニヤンマを除きサラサヤンマ、カトリヤンマ、クロスジギンヤンマとせいぜいヤブヤンマくらいでしょう。

4月半ばより発生し10月末まで見られます。秋深くなると刈り取りの終わった水田の上空を低く飛翔する姿がよく見られます。カトリヤンマと同じ晩秋まで見られるトンボで意外です。

子供たちのトンボ採りの相手として昔より親しまれて来ましたが、現在の若い世代の方たちは“トンボを釣る”ことを知らないと思われまます。トンボも減り、夏休みの宿題に昆虫採集が消えて以来、トンボ釣りもできなくなりましたが、ギンヤンマを見るたびに、いつもそういうことを思います。



ギンヤンマ♂の休止



交尾連結休止



ギンヤンマ メスの単独産卵



同色型メスの連結産卵

## 6. 会よりの連絡事項（事務局より）

1) 関係団体の行事のお知らせです。

ネイチャーゲームの会(松田さん代表)が3月20日春の野草・シイタケ菌打ち等の行事を行われました。ずっと以前の4月につくる会と一緒にいった餅つきが非常に人気があって今回行われたそうです。スタッフ・保護者17名とお子さん低学年が多い20名でした。

2) 4月8日(第2日曜日)ビオトープの総会です。9時二俣瀬ふれあいセンターにお集まり下さい。尚 年会費1,000円をお支払い願います。参加できない方はどなたかに預けるなどして会計の手続きに支障ないようお願いいたします。

又 活動に支障があり今後参加できない方は申し出ください。

3) 親子自然観察隊の募集をしておりましたが、3月20日締め切りまでに申し込まれた隊員は13家族26人の正隊員とジュニア隊員7名シニア隊員4名計37名で24年度は自然環境の活動となります。

4) 昭登山遊ロード二俣瀬の市民センター入り口看板が劣化し全く見えなくなりましたので、宇部市と掛け合って新作品に取り替えていただきました。内容は前のデータが残っていたので殆ど変わっていません。

## 7. 編集後記

ひょんなことから、宇部市の「生物多様性地域連携保全活動計画策定協議会」の委員を受けることになりました。『会員の声』のなかでも報告しておりますように、かなり責任重大な会議のようで…。

任期はH25年3月まで。ほぼ2ヶ月に1回のペースで、H25年の2月まで会議が開催されるようです。H24年6月には、市民参加のイベントも開催する予定です。みなさん、その節にはよろしく願います。

私は2月に岡山県真庭市のバイオマスツアーに参加しましたが、地域の資源を利用して町を活性化させ、環境にも優しい取り組みをされており、大変興味深いものがありました。ホームページを見たら、宇部市もバイオマスタウン構想があるようで、生物多様性保全とリンクしながら進められていくのかなと思われます。

( 中本 亜矢子 記 )